

## 広報ただみ診療所

朝日診療所 所長 わかやま 若山 たかし 隆



今回の広報ただみ診療所では、子宮頸がんワクチンのお話をさせていただきます。

厚生労働省のパンフレットによると、日本で毎年約1.1万人の女性が子宮頸がんになり、毎年2900人の女性がなくなっています。一生のうち子宮頸がんになる人は70人に1人ぐらいとなるそうです。患者さんは20歳代から30代の若い女性に多く、がんによって子宮を失って妊娠できなくなってしまう方も年間約1000人いるそうです。子宮頸がんは、HPV（ヒトパピローマウイルス）感染が原因とされます。一度でも性的接触の経験があれば、だれでも感染する可能性のあるウイルスであり、女性の多くが“一生に一度は感染する”と言われ、感染した一部の人でがんになってしまうことがあります。このHPVウイルスに対するワクチンが子宮頸がんワクチンです。ワクチンの有効性は非常に高く、2023年4月から定期接種となったシルガード®9というワクチンであれば、子宮頸がんを90%以上減らせるとされており、とんでもなく高い効果です！これを受けない手はありません。

子宮頸がんワクチンは12歳になる日の属する年度の初日から16歳になる日の属する年度の末日までの間にある女子の方（小学校6年生から高校1年生の年齢に相当する女子）が対象ですが、中学生以上の接種をお勧めしております。定期接種ですので無料で受けられます。接種をご希望の方は保健福祉課か朝日診療所までお問い合わせください。子宮頸がんワクチンは、副反応を過度に恐れるあまり、定期接種ではなかった時期があり、その年代の方（平成9年生まれ～平成18年生まれ）の接種も実施できます。高校2年生以上で接種をご希望の方は保健福祉課にご相談ください。

## 地域おこし協力隊として Vol.100

「只見での山村留学」を支えるために

只見町教育振興協力隊 にわ たかかず 丹羽 貴一



こんにちは。只見高校魅力化コーディネーターの丹羽です。

只見町に暮らし始めてもうすぐ3年の私は、山村留学生と同じ奥会津学習センターで暮らしています。留学生たちは親元を離れて15歳で一人暮らしを始めますが、本当にすごいことだなといつも感じます。心細くなることも、ときには辛くなることもあるはずですが。

掃除や洗濯といった身の回りの自立も大変ですが、知らない土地、習慣や文化、初めての人間関係の中で、家族のいない状態で、ひとつずつを自分で受けて止め、日々を暮らしていくことは大きなストレスが伴うことです。私自身10ヶ月ほど海外で暮らした経験がありますが、新天地での暮らしは楽しさもストレスも多くありました。「海外留学」と同じくらいにエネルギーのいる一歩を踏み出して、山村留学をしているみなさんにいつも敬意をもってしています。

奥会津学習センターのスタッフの方々は、そんな山村留学生に日々向き合い、支えてくれています。食事の栄養バランス、健康な生活環境の整備、留学生活での悩みや課題へのサポート。こうした支えのおかげで、留学生たちの日常が保たれています。高校生として学び成長していく上で、その土台には安心安全な暮らしがなくては成り立ちません。旅が楽しいのは戻れる家や居場所があるからで、留学生にとって奥会津学習センターでの暮らしがそれにあたります。

そして、自分の夢や目標に向かって進むためには、人との繋がりをつくることもとても大切です。クラスや部活の仲間、学校の先生はもちろん、自分を気にかけてくれる存在や頼れる存在が町の中にたくさんあると、留学生たちは安心して様々な機会に飛び込んでいくことができます。時に迷ったり失敗しても、助言や励ましをもらってまた次の機会に飛び込んでいくことができます。

農家民泊などの体験はそういった繋がりを育む最良の機会のひとつです。新型コロナウイルスの影響で様々な機会を一度失いました。それを現在の状況に合う形で創りなおし、町の人と留学生の豊かな繋がりづくりができるよう、私も取り組んで参ります。